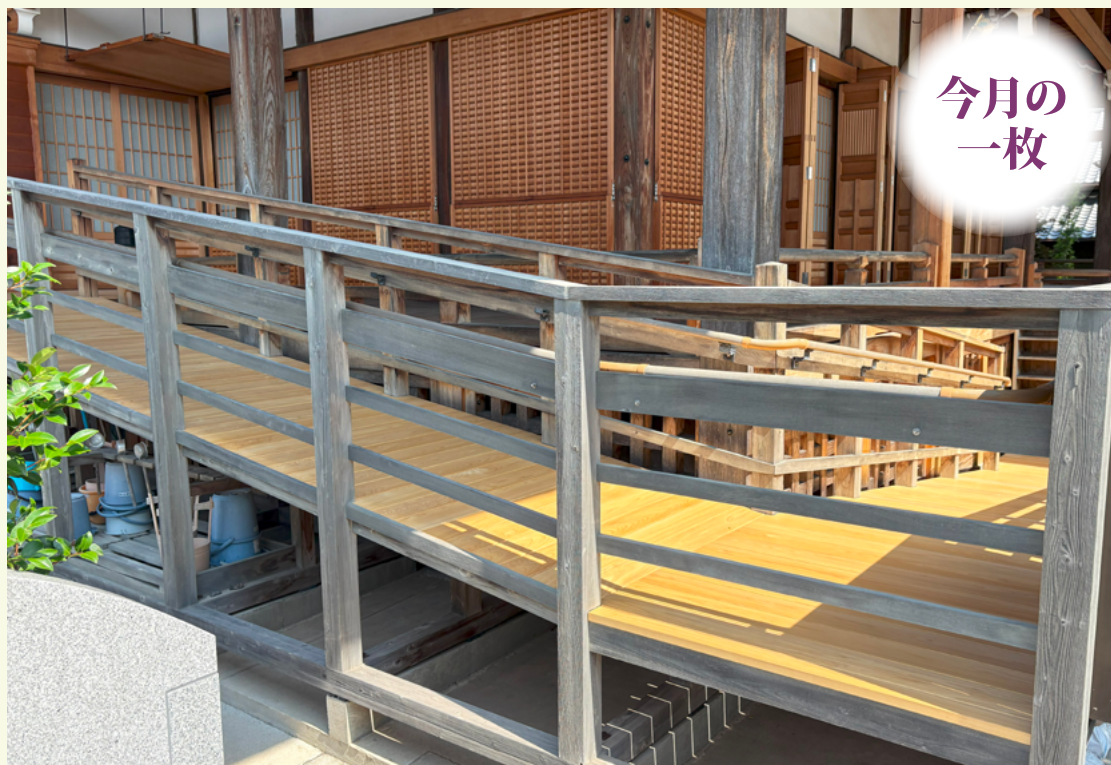




張り替えられたスロープの床板（令和7年6月19日 順慶寺本堂南側にて）

今月の
一枚

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2025年(令和7年)

7月号

VOL.381

◆◆ 本堂のスロープ ◆◆

順慶寺には、本堂へ上がるためのスロープが常設されている。平成16年に厳修された、蓮如上人五百回御遠忌法要の際、体の不自由な方も本堂に上がって、一緒にお参りができるようにという配慮から設置された。昨今の異常な高温により、木材に経たりがでてきたため、この度床板の張り替えとなった。

◆ 悪い行いの果報 ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「悪い行いの果報が熟すまでは

悪人でも好い目にあうことがある。

しかし、悪い行いの果報が熟したときには

悪人は災いにあう。」（第百十九偈）

からの出典です。

昨今、ウクライナ、ガザ、イラン、シリア、ミャンマーなど世界各国で戦争が起こり、多くの人が犠牲となっています。戦争は、その代償として、多くの人命、経済的損失、精神的苦痛などの災いを引き起こします。戦争は、どんな理由があるにせよ、人々を苦痛に引き込む以上、悪行の最たるものと言えます。釈尊の言葉に従えば、戦争を先導した人に、幸福はありません。

さて、今月のところは、祇園精舎を建立する際に、自ら多大な寄進をした有名な、アナータピンディカ（^①給孤独）長者についての逸話です。アナータピンディカ長者は、祇園精舎に釈尊の一行が来られたときには、その度に三度の食事、お香などの供養を欠かせなかったといいます。

今月の釈尊の言葉



悪い行いの報いが
熟すまでは
悪人でも好い目に
あうことがある



『ダンマパダ』
第119偈より

若院のテーマカット NO.72



ところが、あるとき、川が大洪水となって長者の多くの財産が流され、生活が苦しくなりました。それでも長者は一行への供養を続けたので、釈尊は、長者を氣遣って、「今も供養を続けられていますか」と聞かれると、長者は、「こんな粗末なことしかできません」と詫言いました。すると釈尊は、「心が勝れていれば粗末なものにはなりません」と応えたといいます。

ところが、それを見ていた長者の守護神が、釈尊に長者が供養している限り不幸になるとして、密かに長者のもとを離れ帝釈天のところへ逃げていきました。すると、帝釈天は「お前の

ようなものは長者が洪水で流された財産をすべて集めて長者に謝らなければ迎えられない」と追いつ返しました。帝釈天は、守護神の悪行を見て、改めるように諭したわけです。

◆罪深い自身の姿を省みる◆

かつて、作家の五木寛之氏が、大悲の説明をされるときに、「悲」（カル

ナー）とは、人々を救うために発する悲痛な叫びや慈悲の声だと説明していました。仏さまや菩薩さまは、それほどまでに娑婆世界を憂え、してはならないことを仕出かす度に、苦痛にあえぐ凡夫に、倦くことなく悲の心をかけられます。

実は、仏さまや菩薩さまが、そうした悲のこころを常に発してくださっているのに、愚かにも何も聞かず何も知らずに生活し、悪い果報を受けては

愚痴をこぼしているのが私自身です。こうした私たちへに注がれる仏さまのおこころを受け取り、ことばにくださったのが、善導大師が教えて下さった、「機の深信」です。

「自身は現にこれ罪惡生死の凡夫、曠劫よりこのかたつねに没し、つねに流転して、出離の縁あることなし」（『観経疏』散善義、機の深信より）。

つまり、「私自身を振り返ってみると、性懲りも無く罪をつくり続けている身であることも、生死の苦しみに生きていくことも忘れて、とてつもない昔から失敗しては悔やみ苦しんでいる歴史を受けているわが身なのに、それを悔い改めようとしなさい」ことです。

お仏壇に向かい、仏さまのお声を聞かせていただくと、実は、悪い果報を受けるのは自分自身の行いの結果であつたと教えられる。

①【給孤独】

釈尊在世時代の人。須達多（スダッタ）という長者のこと。コーサラ国の舎衛城の近くに、祇園精舎を釈尊に寄進した人物。長者でありながら、常に孤独で貧しいものに食を給していたので、給孤独（アナタピンディカ、給孤独食とも）と呼ばれていた。祇園精舎は、祇樹給孤独園ともいい、須達多長者がコーサラ国のジェータ（祇陀）太子の所有する樹林（祇樹＝祇陀太

②【悲】

子の所有する土地）を買い取って、釈尊に寄進した土地で、その名が反映されている。（浄土宗大辞典より）

サンスクリット語でカルナーのこと。仏教の概念で人々（生きとし生けるもの）に苦しみをともにする同感（同情・共感）の心を持つこと。また、それらの苦痛を取り除いてあげたいという心を持つこと。「拔苦与樂」の「拔苦」に相当する。



先日、御内仏でお取越をつとめました。そのとき、おみがきをなささいと言われましたが、しないといけませんか？



お取越をされましたか。それは、御大儀さまでした。

お取越は、親鸞聖人の御命日が十一月二十八日で、そのあたりでされる場合が多いのですが、多分、法事を兼ねてされたんですね。

質問は、おみがきのことですね。おかしから御内仏では、大事なおつとめをする前には、おみがきをするように教えられています。

沢山の仏具がある中で、真鍮製の

《第六十三回 剪定》

今年は、境内にある蓮如上人像の近くの枝垂れ梅や、その周辺の樹木の剪定を行いました。

素人の手による作業ではありましたが、それなりに整った木々の姿を眺めていると、晴れやかな気持ちになりました。

仏具は、だんだんサビびてくるので、知らず知らずの間に輝きがなくなり、くすんでしまっています。ですから、専用のクリーナーなどを使ってサビをおとして、輝きを取り戻します。

おみがきは、すべて手作業で時間がかかるので、つい遠慮されがちな作業です。しかし、時間をかけてこころをこめておみがきした後に、仏壇に向かうと、心が晴れやかになります。また、おみがきをしてお客様を迎えると、気持ち良く迎えられます。これがおみがきの一番の効果でしょう。

8月の盆会（8月2日）を前に、順慶寺でも7月31日におみがきを実施します。順慶寺の仏具は、仏具店からセラミックコートを勧められたのを断って、毎回おみがきをするにしました。お時間の許される方は、是非おみがきに参加してみてください。

お寺とともに

「許す力」

戦後八十年。昨今、戦争体験者の高齢化により、戦争の記憶を次世代に伝えて残してゆくことの難しさが心配されています。

先日ものぼんやりしていたテレビから、被爆者のご老人が若い世代の方に戦争の語り部を引き継いでおられるお姿を目にしました。

「被爆者の方からお聞きした言葉で一番印象に残る言葉は？」

という質問に

「許す力」

と、答えておられました。これは「平和」や「戦争反対」よりも踏み込んだ言葉と感じました。

実際に原爆被害者であられたご婦人も映像に映っておられました。が、「許す」までにどれだけの痛みや恐怖、悲しみや絶望があつただろうと思うと、それを超えて「許す」境地に立たれたことへ、ただただ敬服するばかりです。

日常の些細な出来事につまずきずっと許せない自分が恥ずかしい限りです。

今なお戦争で騒がしい世界に一番必要な「心」だと世界の指導者の方々に伝えたいです。



順慶寺本堂南側のスロープ改修工事完了

スロープがヒノキの白木で蘇る

さる6月19日、本堂南側のスロープの床板を張り替える工事を完了し、新しいスロープのアプローチに生まれ変わりました。

昨今、順慶寺南落間を中心に、有志による運営の寺カフエが人気で、大勢のお客さんが来られます。南落間が寺カフエの場所選ばれたのは、日当たりの良さと、墓地に近いこと、それからスロープを使っていることです。

スロープは、平成16年に厳修した、蓮如上人五百回御遠忌法要の際、本堂の御内陣の総洗いをし、金色に輝く御内陣になりましたが、車椅子の方や向拝の階段の昇降が難しい方

などが、御内陣まで上がることが困難な方にも見てもらえるように配慮され、設置することになりました。御遠忌法要の後、一部の参詣者の方がスロープを利用されていましたが、木材にそれほど傷みもなく、先の本堂の屋根替えての大きかりな修復工事の際もそのままにして、白木洗いのみを施していました。

ところが、ここへ来て、寺カフエで大いに利用されることになり、安全性を心配する役員から、本堂南側

にあるため、強い太陽光が直接あたること、夏の高湿や風雨にさらされることから、経たりなどが指摘されることとなり、補修が急がれました。昨年、護学会予算にスロープの床板の張替工事の費用を計上しましたが、本堂修復時に施した防蟻工事の5年期限がきたことから、防蟻工事を優先させ、スロープの工事を一年先送りとしたため、本年の工事実施となりました。

工期は、6月16日から四日間。気温35℃以上の高温の中、亀山建設OBの岡崎の業者の方が二人来られ、熱心に施工されました。

床板は、スロープに使うのは勿体ないほど優れたヒノキの無垢板で、暑さは2センチほど。傾斜でスリッパ事故が起こらないように、床板を隙間なく張るのではなく、五ミリほど間隔をあけて張っていました。

出来上がったスロープのアプローチは、やはり白木のヒノキの美しさで清々しいもの。もちろん、年月により、次第に黒ずんでいくことになりませんが、職人さんによりやすと、ヒノキの風合いは保たれ、味のあるものになると説明を受けました。

7月1日の寺カフエに合わせて工事を進めただけに、7月の寺カフエに集まった皆さんからの反響が楽しみです。

6月度護学会物故者（敬称略）

素淳院釋尼妙直

6月3日寂 岡本直子(70)

今川西組 岡本直樹様の伯母

釋尼令風

6月21日寂 清水令子(98)

平松組 清水徹様の母

精紋院釋尼美称

6月17日寂 加藤美和子(95)

高畑組 古澤久長様の義母

常照院釋秀證

6月27日寂 杉浦秀明(77)

名古屋市 杉浦洋子様の夫

境内に半夏生を植栽

順慶寺境内の蓮如上人像の横に、貴役の相木国男氏宅から頂いた、半夏生を植栽しました。

半夏生は、昨年「じゅんこのときめき歳時記」で紹介した花で、夏至から十一日目に花を咲かせ、葉っぱの半分



蓮師像右横に植えた半夏生

編集部短信

◆防災設備点検終わるⅡ さる6月2日、岡崎市の近藤商会による消火器・非常ベル等の防災設備の点検が実施された。

◆本堂の構造体の定期点検実施Ⅱ さる6月13日、本堂改修工事の施工業者であった、亀山建設によって、

五年点検が実施された。点検では、本堂の傾きや歪み、木材の傷み具合などを詳細に調査し、どれも許容範囲であることが確認された。以降も定期的に検査が行われる予定。

編集雑記

梅雨前、裏庭の二本のコニファーを伐採しました。二十五年ほど前、鉢植えだったコニファー。垣根にして4m程まで成長しましたが、暑さで枯れてしまいました。伐採は若院と二人で一日がかり。作業中、チクチク葉っぱが刺さり、痛いお仕置きを受けた思い出でした。(住)

.....
厳しい暑さが続いています。外で作業をしていると、数十分もしないうちに、じんわりと手先がしびれてくるのがあります。体力的には作業を続けられる余裕はあるのですが、熱中症のリスクを考えると無理はできず、もどかしさを感じました。(若)



7月の主な行事予定

日 曜	行 事 内 容	掃除当番
1 火	寺カフェ (9:00～、順慶寺本堂南落間他)	
2 水		
3 木		木-1
4 金		
5 土		
6 日		
7 月		
8 火		
9 水		
10 木		木-2
11 金	定例責役総代会 (19:00～、順慶寺玄関)	
12 土		
13 日		
14 月	同朋ゼミ (14:00～、順慶寺玄関)	
15 火	真宗講座 (16:00～、順慶寺本堂)	

16 水		
17 木		木-3
18 金		
19 土	順慶寺こども会 (9:00、順慶寺本堂)	
20 日		
21 月		
22 火	助音講 (16:00～、順慶寺玄関)	
23 水		
24 木		木-4
25 金		
26 土		
27 日		
28 月	宗祖聖人御命日 (7:00、順慶寺本堂)	
29 火		
30 水		
31 木	おみがき・大掃除 (8:00～、順慶寺)	

7月行事内容 詳細

定例責役総代会

7月11日(金)

午後7時 順慶寺玄関

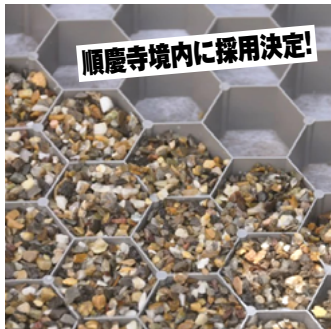
順慶寺の責任役員および総代による、半期に一度の会議を開催します。主な議題は、令和7年度護寺会上半期行事報告と会計報告、下半期行事予定の審議、令和6年度順慶寺会計報告などです。

とくに、順慶寺会計報告では、宗教法人順慶寺の会計報告(住職が執行した令和6年4月～令和7年3月の会計)が住職から責役総代会の場で提出され、審議されます。

砂利敷きの安定に最適

グラベルフィックス

「グラベル(砂利)」を充填することで地盤が「フィックス(安定)」し、一見砂利道なのにとても歩きやすくなる画期的な砂利地盤安定材の商品。浸透性に優れ水はけを良くし、雨水を地中に帰す働きもあります。



砂利を入れたときのグラベルフィックス

お知らせ

●境内砂利部分の工事について

7月より、順慶寺境内北側の砂利部分の改修工事に入る予定になっています。

順慶寺護寺会総会にて、境内の砂利の流出を防止するために工事を行うことが了承されました。その後、役員で検討した結果、多くの寺社が採用している、砂利を安定させる「グラベルフィックス」(上図)という素材を使って工事すること決し、

じゅんこのときめき歳時記

ソテツ

みなさん、梅雨の真っ最中ですが、体調は大丈夫でしょうか。

このごろは、梅雨でも本当に暑いので、なんだか南国育ちのソテツが元気に見えます。

順慶寺の境内にもソテツが二カ所植えてあるのをご存知でしょうか。ソテツは、蘇鉄という字のように、養分として鉄を与えると蘇ると聞きました。家のお庭に植えると、お金を喰ってしまふので、お寺なら大丈夫だと庭師さんが植えてくださったと聞いています。太古から垂熱帯で育っているソテツは、一メートル育つのに40年くらいかかると言われるし、10年に一度、5月

浜松市の榊アズマさんに依頼しました。

工期は、7月8日から一週間、8月4日から一週間の予定。工事中はご迷惑をおかけします。

●7月真宗講座の日程について

7月の真宗講座は、講師の松山先生が、本山安居の都講をされるため、安居の開催される前の15日の予定になっています。受講される方は、お間違えのないようお願いします。

から7月に開花するという珍しい植物らしいです。

本堂の仏華の材料に、ソテツは本堂に重宝するそうですが、それでもチクチクする葉っぱにはいつも大変苦労すると聞いたことがあります。

夕風の

三河の寺の大蘇鉄

大峯あきら

